

第80回8020童話賞

児童生徒の部「最優秀賞」作品

「ふしぎなふしぎなまほうのラムネ」

小学 2年生

のり子ちゃんは、小学二年生。

ある日、ひるごはんをたべた後、うがいをしてみようと、

「あれれ…？おかあさん、はがいたい気がするの。うがいをした時に、ココがジーンっていなくなったの。」

「あらら、虫ば？みせてごらん。」

のり子ちゃんは、心ばいして口を大きくあけました。

「あっ!!」ココに小さなあながあるよ。」

と、おおかあさんがハブラシの先で、こちよこちよ…。

「あいたたた。」

「そんなにいたいなら、はいしゃさんに行こうか。」

それを聞いたのり子ちゃんは、心の中で“どうしよう”と、とてもドキドキしました。

はいしゃさんにつきました。

“先生はやさしそうだ。よかった。”と、心の中で言いました。

そして、いすにすわったら、先生が、白色でもものにおいのする、小さなハートの形をしたものを、三こくれました。

「まほうのラムネだよ。水といっしょにのんだらねむって、ゆめを見るよ。」

そうすると、のり子ちゃんは、虫ばの歯と話ができるんだよ。話をしている間にちり

ょうをするからね。」

と、先生が教えると、のり子ちゃんはすばやくまほうのラムネのみこみました。

そして、すべにねむりに入りました。

のり子ちゃんがあたりを見回すと、そこは上も下も赤・赤。

「ここはどこだろう？」

のり子ちゃんがつぶやくと、

「口の中さ。」

と、どこからか聞こえてきました。

「そういえば、虫ばの歯と話をしにきたんだ。」

のり子ちゃんは、虫ばの歯をさがしはじめました。

下のおくをしっかりとみると、左の一ばんおくのはに、小さなあながあいていました。

そこは、少し黒っぽくなっていました。

「これ、虫ばの歯だ！」

のり子ちゃん、何でわたし、虫ばになっちゃったのかなあ…。わたし、とてもいたい」の。」

と、虫ばの歯は、かなしそうに言いました。

「ちゃんと、おくまで、みがけていなかったんじゃないのかなあ。」

と、フワフワした、したべろが言いました。

「そうかあ、みがけていなかったのかあ…。のり子ちゃんが、むんねんそう」言いました。

すると、虫ばの歯がやさしく、

「これからは、がんばってくれる？」

のり子ちゃんは少しの間だまって、すべ、うん、がんばるよー！」

のり子ちゃんは、とてもしんけん。

「さて、今から、のり子ちゃんに、口の中で見れないものを見せてあげるね。こっちにおいて。ほらー！」

のり子ちゃんは、目がまん丸になりました。

「わっすごい！歯と歯がかた車してる!!」

「これは、下が大人の歯。上が赤ちゃんの歯。

大人のはは、赤ちゃんのはがぬけるのを、たのしみにまっしているところなんだ。」

と、上のまん中の大きな大人のはが、とてもはりぎって言いました。

「のり子ちゃん、『8020』といっ言はが

あるんだ。『80』は80さい』『20』は20本。
『80さい』なっても20本歯をのこそう
!!』というみなんだよ。」

と、さい近生まれてきた、大人の歯が教えて
くれました。

「これから、しっかりとみぎきをしていねば、
ぜったい『8020』になれるよ！それか
ら、のり子ちゃん、たべた後は、すぐにほ
くたちをみがいてね。いつもピカピカにな
っていいな。」

と、かわいい赤ちゃんの歯が言いおわたた
たん、はっと目がさめました。

「のり子ちゃん、歯と、お話できた？しっか
りはみがきをしていねば、元気いっぱい
大人のはが生えてくるから、がんばって
ね。」

と、先生は、かおを近づけて、ニッコリわら
って言うてくれました。

はいしゃさんからかえる時、のり子ちゃん
は、はのみんながみるこぼれうに、しっかりと
はみがきをして、元気な大人のはをつくら
う！そして、はのみんなに『8020』になっ
てくわてあらがとうって言うてもらいたい
な。」のり子ちゃん、は、しっかくへん、しっ
もつとはみがきがすきになりました。